

市長が行く

豊洲市場の

二の舞にならないために

今少子高齢化の流れの中で、人口増を願い新治地区にニュータウンを造ろうという構想が地権者を中心として持ち上がっています。圈央道が開通し、茂原北インター、エンジができましたが、そこから車で5~6分の場所に、住宅戸数243戸と野球場3面の施設を造るという計画で、人口増に貢献できるのではという期待もあります。

以前にも、ここにニュータウンを造ろうという動きはあつたのですが、バブルがはじけ、土地神話が崩れ、ニュータウンを造つても売れないとが想定されたため、中止を余儀なくされた経緯がありました。国は地方創生の名のもとに、地方へ人口増を求めてきています。しかし、ニュータウンを造つたからといって、それを人口増につなげるためには、さらなる努力が必要とされるでしょう。

それはそれとして私が気になっているのは、新治のニュータウン構想では、野球場の下に再生土を入れて造成することが計画されているということです。

実は一昨年、市内川戸地区に埋め立てをした場所から、再生土だと言われた再生砂の中、ダイオキシンや塩化物が含まれていたことが後で判明し、1万6千m³の再生砂を撤去した事例がありました。埋め立てをした下流の地域には水田があり、稻刈り前に立ち枯れが広がり始めたため、出荷制限がなされ、その米が流通するなどの被害は起きませんでした。しかしそれでも、

農家の方々は補償されたとはいえるとても不愉快な経験をされたわけですし、埋め立てをした業者や再生砂を製造した業者は各農家への賠償のほか、1万6千m³の再生砂の撤去に多額の処理費がかかり、大きな代償を支払いました。

その現場を私も見ましたが、稲穂が異様に変色していてとても不気味でした。

そのような体験から、再生砂等の安全性には不安を感じます。まして、今回の新治の野球場では40万m³の土が用いられるそうで、川戸地区の約25倍となります。この事業は県が許可すれば可能となつてしまいますが、茂原市としては、再生土ではなく、現場で出土した土を調整して整地してくれた方がありがたいのです。もしそれがかなわないのであれば、万が一の事態が起きた場合の補償を事業者に強くお願いしたいと思います。東京都の豊洲市場もいざオープンというところで汚染問題が表面化しました。その二の舞にならぬいためにも、慎重に進めさせていただきたい案件であります。

No.93

茂原市長 田 中 豊 彦



※再生土=新治のニュータウンで使われる建設汚泥をリサイクルした土
※再生砂=川戸地区に埋め立てられ、焼却灰をリサイクルした砂